

日本原水協活動交流ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話:03 - 5842 - 6031 2015年
FAX:03 - 5842 - 6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com 12月19日発行

12月、被爆者訪問をぜひ強めよう！

ちひろカレンダーを持参して、初めての被爆者自宅訪問

遠入健夫事務局長【大分】

12月13日の日曜日、大分県被団協の役員さんの案内で初めての被爆者自宅訪問をしました。あらかじめ連絡をしていただいていたが、会ってお話をしていただけるか一抹の不安を抱きながらの訪問でした。

7人の方に会うことができました。名刺を渡し自己紹介をして、カレンダーを手渡し訪問の目的をお話すると初対面にも拘わらず気さくに対応していただき、これまで誰にも話したこともない、自分の子供にも話したことがないという、被爆の瞬間のことやその後の生き様など言葉を選びながら

お話しいただいた。同行の役員の方も驚いたほど話が弾みました。それでも、被爆の直後に目撃し体験したであろう凄惨な様子などについては言葉を濁している様子が伺われました。

ある被爆者の方が「今日はわざわざ訪ねてきてくれたので話したが、自分の体験を他人に話してもいいものか迷いがある。本当のことは言葉にできない」と被爆の瞬間一緒に居て亡くなった人たちへの想いに耐えている様子が印象に残りました。どこでもカレンダーは大変喜ばれました。

19日には二人の支部長さんとお会いし、年内の自宅訪問は無理かもしれないが、カレンダーだけ届け年が明けてから訪問してはどうかということになりました。二人の支部長さんとも「被爆者が自分から話すのは最後に機会かもしれないので、出来るだけ会ってもらえるようにします」と約束していただきました。ただ、一部の支部長から「原水協と会うこと」に異議を唱えていることも明らかになりましたが、会長、事務局長さんは「会員のためにもいいことだから進めましょう」と言っています。



<被爆者援護・連帯募金の改めてのお願い>

被爆地広島と長崎をはじめ、全国各地で被爆者宅を訪問する行動が取り組まれています。「はじめて被爆者を訪問し、ちひろカレンダーを贈呈」（大分）や、被爆70年を機に、被爆者との連絡・つながりができとりくみがはじまる県原水協も生まれています。こうしたとりくみがひろがっているだけに、被爆者援護・連帯募金を強めていただきますよう改めてお願いします。